

令和7年度（第2回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年6月27日（金） 14時00分～15時55分
 - 2 開催場所 加古川市役所北館 大会議室
 - 3 出席委員 日置委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、岸本委員、菅原委員、久保田委員、山尾委員、高橋委員（9名）
 - 4 欠席委員 大山委員、兼子委員、徳田委員、小倉委員
 - 5 出席職員 小南教育長、松尾教育指導部長、藤原教育指導部次長、尾崎教育指導部参事、井上教育指導部参事、今津教育指導部参事、真鍋教育指導部参事、岡本社会教育課長、中倉中央図書館長、又賀中央図書館係長、石川加古川公民館長、久保田加古川西公民館長、井部東加古川公民館長、後藤両荘公民館長、西澤志方公民館長、小原加古川北公民館長、杉本野口公民館長、福島氷丘公民館長、中田平岡公民館長、大西陵南公民館長、北野別府公民館長、木村尾上公民館長、社会教育課（西森担当副課長、福島家庭教育係長、土屋地域教育係長、本田主査）
 - 6 傍聴者 1名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）社会教育施設の運営について

（中央図書館、社会教育課、公民館より説明）

委員

図書館の利用について、こどもに対しては様々な取り組みをされているが、一般の大人や高齢者に対しての具体的な取り組みがあれば教えていただきたい。

中央図書館係長

一般の方を対象とした取り組みの中でも、一般の方に興味を持っていただけるテーマを取り上げ、年1回の読書講演会と年2回コースの読書講座を実施した。読書講座について、昨年度は「はじめての日本刀」というテーマを取り上げて実施したが、1日で募集人数に達する程人気があった。読書講演会では、昨年度は民俗学の用語で妖怪などの人間以外と婚姻をするという昔話の類型である異類婚姻譚について講演をしていただいた。また、日々のサービスとして、大活字本を積極的に購入しており、読みやすくなったとの利用者からの声もいただいているところである。

委員

個人の読書活動だけではなく、例えば、一般の方が図書館などで活躍できる機会が作れたら良いと思うが、そういった取り組みはされているか。

中央図書館係長

絵本等の読み聞かせの養成ボランティア講座を毎年開催しており、今年は5回コースで開催している。講座実施後、ボランティアとして登録したのち、実際に図書館や希望の児

童クラブ、希望の小学校などを訪問し、実際に読み聞かせ活動をしていただいている。

委員

両荘みらい学園のダンス教室は部活動地域展開に向けた試行プランで市内小中学生 24 名が参加しているとのことだが、参加者のうち一番遠方の方はどの地域から参加しており、どのような移動手段で参加されているのか。また、ダンス教室を実施するきっかけを教えてください。

両荘公民館長

参加者のうち中学生は 24 名中 4 名、小学生は 20 名で、小学生と中学生で時間を分けて活動している。小学生は高学年が多く、ほとんどが両荘みらい学園の生徒であるが、中学生のうち 1 名以外は両荘みらい学園以外の生徒が参加しており、交通手段は保護者の送迎がほとんどである。また、ダンス教室を実施しているきっかけは、実施前の中学生へのアンケート結果を受けて、非常に人気のあったダンス教室の実施を決定したという経緯である。

委員

図書館の利用数が全国的に下がっているのに対して、本市では利用が増えている点についてはどのように評価をしているのか。

中央図書館係長

全国的に利用貸出冊数は低下傾向にあるが、リニューアルや新規オープンした館については、一時的に貸出冊数は増えている。加古川図書館は令和 3 年 10 月に駅前に移転し、リニューアルしたことで、一時爆発的に利用が増えた実績があるが、分析すると移転前と比べて J R 沿線を利用している近隣在住の方の新規登録が増えている。また、学習ワークスペースを設けていることも利用増の要因の一つと考えているが、今後もたくさんの方に利用いただけるような取り組みをアンケートなどを通じてニーズを拾いながら、運営していきたいと考えている。

委員

成果が出ているので、引き続き利用増に向けて取り組みを進めていただきたい。加えて、説明いただいた加古川市子どもの読書活動推進計画（第 4 次）と関連するが、小さな時から読書をすることで養われる読解力は大人になっても必要だと考えているため、読書習慣を定着させるための取組などがあれば教えていただきたい。

中央図書館係長

第 4 次計画で新しく追加した内容もあるが、小中学生に 1 人 1 台配布している端末を活用して電子書籍の読み放題サービスを提供しており、初年度の 50 件から今年度は 317 件に増やし、新しいサービスとして提供している。電子書籍には読み上げる機能もあり、紙で文字が読みにくいこどもに対しても、楽しんで読書していただける環境も整えているところである。

委員

私が所属している市民団体連絡協議会には、様々な活動をしている団体があるが、そういった団体との繋がりがあれば公民館の活動の幅も広がると思うので、ぜひ活用いただきたい。

委員

加古川図書館の特徴ある取組について掲載された新聞記事を読んで興味を惹かれた。図書館や公民館で特色のある取り組みをたくさんしているが、それを多くの人に伝えるためにどのようにPRするか、検討されていると思うが、実際に令和6、7年度で記事等に取り上げられた事例があれば教えてほしい。併せて、SNSへの発信等で工夫している点を教えてほしい。

中央図書館係長

加古川図書館が民間の書店と出版社と連携して、紙芝居を一堂に放出する取り組みが兵庫県初として記事掲載され、紙芝居関連の講座を実施したことも掲載いただいた。SNSは加古川市の図書館4館共通のFacebookを公開しており、各イベントの案内や本の紹介などの情報を発信している。

加古川北公民館長

家庭でできる燻製教室という講座をBANBANテレビで取り上げていただいた。

委員

東加古川公民館についてはいかがか。

東加古川公民館長

HPを中心に情報発信をしており、取り上げてもらえる情報については、企画部、こども部、教育委員会のSNS媒体でも情報発信を行っている。

委員

HPでの周知に加えて、若い人はSNSで情報を得る人が多いと思うので、例えばSNSで情報を発信している人を見つけて、紹介してもらうこともできれば良いと思うので、SNSでの効果的な発信についても引き続き検討いただきたい。

委員

公民館の利用について、登録団体は減少傾向が止まる見込みは薄いと思うが、何か良い対応策はないか伺いたい。高齢者大学については微増傾向に見受けられるが、公民館の利用においてもコロナ禍以前の状況に戻る兆しがあれば状況を教えていただきたい。

加古川西公民館長

高齢者大学については、コロナ禍が明けて学生数が回復傾向にあるが、高齢でも働く方が増えているので、平日の日中に活動を行う高齢者大学の学生数はなかなか伸びづらいと考えている。登録団体の在籍者数については、団体が高齢化しており、具体的な対策は見出しづらいが、例えば団体の紹介等を町内会通じて周知するなど引き続き実施したい。

委員

登録団体については、人数が減る程団体内での負担が増えて、より人数が減ってしまう恐れがあり、難しい課題であるが、各公民館のさらなる努力をお願いしたい。

委員

資料を見ると、図書館も公民館も多くの取組をいただいていることが分かる。今後、たくさんの方が施設を訪れるような魅力ある取り組みをしていただきながら、各館の連携がさらにできれば良いと感じた。加えて、教育委員会としても新聞などの広報媒体を上手く活用しながら、図書館や公民館のPRを図っていただきたい。

(2) 家庭教育の推進について (社会教育課より説明)

委員

家庭教育の支援について、支援してほしい人のニーズを把握することで、はじめて支援方法が検討できると思うが、教育委員会としてアンケートなどのニーズ調査を行うことは検討しているか。

社会教育課家庭教育係長

各家庭でどういう悩みを抱えているのかを知る機会としてアンケートの実施を検討している。

委員

学校現場で導入している chromebook を活用することで容易にアンケートの実施ができると思うので、それを活用し、アンケートを実施したうえで、対策について検討してほしい。

委員

P T Aが非常に問題になっているが、現在P T Aがなくなり、保護者会になっている学校はあるのか。

社会教育課家庭教育係長

現在1つの中学校でP T Aがなくなり、保護者会となっているが、P T A連合会には参加いただき、意見交換を行っている現状である。

委員

当然やるべきではないかということも避ける時代になっているので、今後P T Aがなくなる心配はあるが、簡単に無くすと必ず困るので、活動は継続していただきたいと考えている。

委員

小学校は比較的行事に対して、保護者の方に参加いただいております、現時点で切実な人手不足は感じていないが、例えば授業参観後に講演会を実施した際には講演会の参加人数が減っていることは感じている。そうした状況であるが、広く保護者や地域の方にも参加いただき、みんなで学べる機会を作る努力をしているところである。

委員

小学生のバレーボール活動や中学生の学習サポート活動をしているが、中学生になると保護者の悩みが非常に多い。具体的には「こどもが学校へ行きたくない」、「夜中にスマホゲームをしている」などの相談が度々寄せられる。こういった保護者の悩みに対してカウンセリングを行うことが非常に大事だと思うが、学校で相談があった場合、スクールカウンセラーがこどもの悩みを含めて保護者の相談も行っているかについて教えてほしい。

教育指導部 教育支援推進担当参事

各学校では週1回、年間35回スクールカウンセラーが学校現場に赴き、相談を実施している。加えて、緊急の相談事案があれば、教育相談センターで保護者の教育に対する悩みについて相談を行い、スマホ依存については少年愛護センターや警察の機関である少年サポートセンターも連携しながら、依存に関する相談も受けている。生活リズムを劇的に

変えるのは難しく、スマホの所持率も年々増えているところではあるが、学校等で依存症についての講演会を民間団体に依頼したり、少年愛護センターが赴いて実施するが、なかなか保護者の参加が少ないことが課題である。本来はご家族の間で話し合いをいただくよう日頃から申し上げているが、保護者からこどもへ危険性を教えるところまで浸透していない点が最大の課題と認識している。仮に依存症になった場合は、医療機関を紹介することもあるので、そこで解決の糸口を掴んでいただけるように相談・カウンセリングを実施している。

委員

つい先日、教師による児童盗撮の報道があり、専門家の方が学校の中での指導が大事であるとおっしゃっていたが、そういうことを実施していただきたい。加えて、昨年から人権擁護委員の人権教室ではプライベートゾーンについての周知啓発も取り入れているが、学校でも指導いただきたい。

教育指導部 学校教育担当参事

教員の非違行為の防止については、折に触れて各学校で指導を行っているところであり、確実に学校内で改めて周知を行っていききたい。プライベートゾーンについては、学校により学年は様々だが、多くの学校では主に低学年の児童に対して学習を実施しており、中学校では第二次性徴期に合わせて保健の授業を行う等、こどもの成長段階に合わせて自分を大切にするような教育を実施しているところである。

委員

家庭教育の推進については、経済的な理由が一番大きいと感じている。別の会議で話を聞いた際に、朝ごはんを食べないことについては、特に夏休みの間は給食が出ないので、その間に朝ごはんを抜くこどもが増えるということを知った。そういう状況に対して、教育委員会として、例えば給食がない日に特化して、午前中に勉強を教えて、給食を食べさせて、こどもをお家へ帰してあげるような取り組みができないのかと思うことがある。学童保育との兼ね合いもあると思うが、どのように考えているか。

社会教育課長

本市の児童クラブについては、夏休みの間は、午前7時45分から長ければ午後7時まで開所している。現在半数の児童クラブを民間へ委託しているが、委託先については、保護者の負担軽減の観点もあり、有料で弁当を提供している。またクラブで過ごす中で勉強する時間も設けており、遊ぶ、食べる、勉強するという習慣は身につくと考えている。

教育長

先ほど非常に大事な意見をいただいた。児童クラブに入れることができる家庭についてはそれで良いが、経済的に困難な家庭があることも確かなので、そういった方たちに対し、こども食堂などの取組が少しずつ広がっている現状はあるが、まだ充分ではないので、行政が一緒になって、地域の皆さんの協力を得ながら充実していくことがこれからの大きな課題であり、検討しながら少しずつでも進めていきたいと考えているのでご理解とご協力をお願いしたい。

委員

各公民館エリアにささえあい協議会というのがあり、高齢者をどう見守るかについて話し合いをしている。民生委員も入っているので、困っている家庭も見守りながら、行政の

枠を超えて地域でどのように助けていくかと考えることも大事になると考えている。

（報告事項）

（１）兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会（６／３）の参加報告について

（２）東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会総会・研修会（６／６）の参加報告について

○ 閉会 15 時 55 分

委員長あいさつ

以 上